

当日のカワハギ仕掛け

▲仕掛けやハリは多めに用意しておきたい



▲仕掛けやハリは多めに用意しておきたい

を出すといった展開が続いていると、「キヤーツ、やっと釣れたわ」と歓声を上げたのは女性アングラの渡邊紗耶加さんだ。彼女は沖釣りの経験はあるもののカワハギ釣りは初めてのこと。

ワハギをゲットしていた。「鈴木さん、左舷で良型が上がったよ」と言う船長の言葉で左舷に回り込むと小林さんが25センチのカワハギを釣り上げていた。小林さんはその後、本日最大となる28センチも取り込み気を吐く。



▲東京湾のカワハギはこれからますます面白くなる

魚との駆け引きは釣りの魅力の一つだが、カワハギ釣りはその極致ともいえるだろう。アタリを全く察知できずにエサがスッテンテンにされると敗北感に打ちのめされるが、それだけに誘いを駆使してアタリを引き出し、掛けたときの「してやったり」感を味わってしまおうとカワハギ釣りが病みつきになってしまっているのは私だけではないはずだ。

浅場はベラの猛攻

カワハギと勝負するべく11月3日に訪れたのは東京湾奥金沢八景の新修丸。新修丸での目下のカワハギの釣果はトップで10〜15枚といったところだが、当日は3連休の初日ということもあり乗合船は満員御礼、カワハギの仕立船も出るとのこと。

「始めてください。水深は14メートル。若干根がありますから根掛かりに気を付けて。今日は混雑していますからオモリは30号でお願いします」と安里船長から開始の合図が

船宿の待合室でお茶をいただいていると次つぎとお客さんが集まってきて釣り談義が始まる。皆さんの話を伺っているとこの時期から大きくなる海のフォアグラとも言われるカワハギの肝がお目当ての方も多いようだ。7時20分になると乗合船は安里航太船長、仕立船は親方の新明正義船長の操舵で出船はたしてどちらの船長に軍配が上がるのだろうか。両船が向かったのは竹岡沖で8時15分にポイントへ到着する。

東京湾のテクニカルゲーム カワハギの魅力満喫!

●東京湾奥金沢八景発↓竹岡沖
本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

知得! Tips and Tricks
船べり便利グッズ

カワハギ釣りはハリの交換やエサ付けを頻繁に行うため、それらの効率を高めるためには船べりに小物をまとめられるものがあると便利。市販品もあるが、私が自作しているのは平板の中央にタッパを取り付け、両側にマグネットシートを貼ったもの。どれも100円ショップで買えるので税込み330円でできる。

▲釣り座周りを整頓して手返しアップにつなげよう

出された。すると着ドンで乗ったらしく、右舷トモ3番の淵田さんが大きく竿をしならせてリリングを開始。時折カンカンとたたくカワハギ特有の引きを楽しみながら22センチのカワハギを抜き上げた。続けて左舷胴の間の芝原さんが18センチ、隣の外村さんが20センチを釣り上げると、右舷トモの織茂さんが釣ったのは24センチのますますのサイズだ。

しかし根周りだけにベラが果敢にアタックしてきて船内まさにベラ祭り。船長に「何かベラ対策ってありますか?」と聞くと、「タナを高くして浮いているカワハギを宙で掛ければいいのですが、まだ水温が高いのでベラが上までエサを追いかけてくるので打つ手なしですね」とお手上げ状態。

これも根周りだがベラの少ないポイントらしく、ベラ攻撃は激減したもののカワハギからのラブコールも少ない。これだけ船内が混雑していてもまったくオマツリが発生しないことから分かるように潮が動いていない。これもカワハギの活性に影響を及ぼしているのだろう。それでも左舷ミヨシの片桐さんが20センチのカワハギを釣り上げると、淵田さんが何

そこで9時になって、「深場に行きましょう」と船長が移動を告げ、5分ほど到着した水深27メートルラインで再投入の合図が出された。ここも根周りだがベラの少ないポイントらしく、ベラ攻撃は激減したもののカワハギからのラブコールも少ない。これだけ船内が混雑していてもまったくオマツリが発生しないことから分かるように潮が動いていない。これもカワハギの活性に影響を及ぼしているのだろう。それでも左舷ミヨシの片桐さんが20センチのカワハギを釣り上げると、淵田さんが何



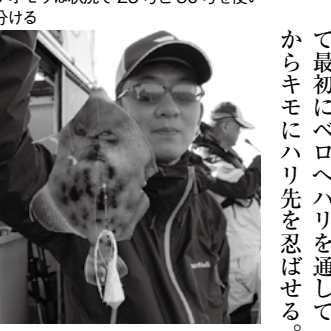
▲今後は釣果も安定してくるはず



▲全般にサイズはよかった



▲これからは食味も楽しみな時期



▼オモリは状況で25号と30号を使い分ける

バタとカワハギが取り込まれ私の釣りはしばらくお預け。私の隣でお父さんと釣りに来ている諏佐瑞紀君もこのときに父親より早くカワハギを釣り上げる。すると、負けてはなるものかと父親も後に続いてカワハギをゲット。ようやく写真撮りも終わったところで今度こそ本当に釣りに参加。軽くキャストして着底を確認したところで糸フケを取ったら仕掛けの長さほどゆっくりと聞き上げる。その場で小さくタタキを入れながら誘い下げて着底させゼロテンションでステイする

と、カッンと硬く乾いた魚信が小さく出た。じらしのタタキを入れた後に聞き上げるとハリ掛かりしたらしくカンカンと竿を通して手応えが伝わってきた。「これですよ。この感触がたまらないですよ」幸先よく1投目から20センチのカワハギを釣り上げて気分爽快だったのだが、再びカワハギの活性が落ちてアサリのキモだけが吸われる状況になった。そこでアサリの水管を外して最初にベロへハリを通してからキモにハリ先を忍ばせる。

●船宿information
東京湾奥金沢八景
新修丸
☎045-784-2636
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=カワハギ乗合一人9000円(氷付き)。
別売冷凍アサリ1500円、生アサリ800円(要予約)。
駐車場代500円
▶備考=ほかカサゴへも出船。出船7時半、
沖揚げ14時

安里 航太船長

これは食いが渋いときに私がよく使う手で、この方法だとハリがキモの中にスッポリ収まるのだ。それと遠投して横の誘いも駆使した方法でどうにか3枚を追釣したところで沖揚げの時間となった。本船の釣果は一人1〜9枚だったが、帰港して仕立船の釣果を聞くとトップ23枚で次頭は15枚が2名とのこと。どうやら今回のポイント選びは新明船長に軍配が上がったようだが、これから水温が下がればカワハギも固まってくるので安定した釣果も見込めるだろう。釣って楽しく、食べておいしいカワハギ釣りに出かけてみてはいかがだろうか。